

平成 25 年度の山部会の活動進捗報告（案）

1. 山部会の目標とテーマ（課題）

山部会の 3 ヶ年の活動テーマを以下に示す。

（3 ヶ年の目標）

- WGの中で山村再生担い手づくり事例集の作成を行い、作成を通じて得られた人のつながりを活かした山村再生に向けた活動を山部会構成メンバーが行っていく
- WGの中で森づくりガイドラインの策定とモデル林によるモニタリングの試行的実施を行う。
- WGの中で、木づかいガイドラインの策定を行い、ガイドラインを活用した木づかいの取組みを山部会構成メンバーで実行

<テーマ>

<解決手法>

山村再生担い手づくり

森林の適切な管理は山村再生が重要。まずは人づくりに取り組む。

山村ミーティング

山村再生を支援する取組みへの参加・情報共有を行う。
※今年度はWGとしては活動せず他団体の情報共有に留める。

森づくりガイドライン

流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。

木づかいガイドライン

矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。

2. 今年度の活動実績

今年度の活動実績を以下に示す。全 7 回のWGを実施し、各回でテーマを決めて行った。

活動内容	日時	場所
第 9 回 WG (根羽) 21 名参加	6 月 29 日 (土) 9:00-12:00	・グリーンハウス森沢 ・根羽村森林組合
第 10 回 WG (根羽) 12 名参加	7 月 20 日 (土) 9:00-12:00	・ネバーランドファームイン ・根羽村老人福祉センター しゃくなげ
第 11 回 WG (豊田) 15 名参加	8 月 17 日 (土) 9:00-12:00	・足助里山ユースホステル ・豊田市役所足助支所 2 階 第 2 会議室
第 12 回 WG (豊田) 15 名参加	9 月 14 日 (土) 9:00-12:00	・旭高原元気村 研究室
第 13 回 WG (豊田) 17 名参加	10 月 21 日 (月) 15:00-17:00	・豊田氏職員会館 3F 第 1 部室
第 14 回 WG (恵那) 17 名参加	11 月 9 日 (土) 9:30-12:30	・奥矢作レクリエーションセンター 大会議室
第 15 回 WG (恵那) 28 名参加	12 月 11 日 (水) 15:00-17:00	・恵那市 上矢作振興事務所 基幹集落センター2F 中会議室

※参加人数は事務局含む

3. 各テーマの活動成果と課題

今年度に取り扱った主な活動成果と課題について、山部会のテーマに沿って以下にまとめる。

<テーマ>	<今年度の活動>	<活動の進捗>
<p>山村再生担い手づくり</p> <p>森林の適切な管理は山村再生が重要。そのためまずは人づくりに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第9回WG (今年度の進め方) ・ 第10回WG (取材方法・マニュアルについて) ・ 第11回WG (取材先の共有と取材者の調整) ・ 第12回WG (取材先の共有と取材者の募集について) ・ 第13回WG (取材経過の情報共有) ・ 第14回WG (取材状況の共有) ・ 第15回WG (取材の中間報告) 	<p>〔進捗〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山村で活動する団体への取材が行えた。 ・ 最終の編集作業を行う必要があるものの、事例集としてのとりまとめが実施できた。 ・ 取材メンバーとして、川・海のメンバーの参加が一部だがみられ連携のきっかけづくりが行えた。
<p>山村ミーティング</p>	<p>第9回WG (今年度の進め方)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度WG化はせず、関連する他団体の活動などあれば情報共有を行った。
<p>森づくりガイドライン</p> <p>流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第9回WG (今年度の進め方) ・ 第13回WG (矢作川流域の森づくりの作成) ・ 第14回WG (矢作川流域の森づくりの作成) ・ 第15回WG (地域毎の森づくりの紹介) 	<p>〔進捗〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森づくりガイドラインをよりよく理解するための「矢作川流域圏の森づくり」が行われ、メンバー間での情報共有が行われた。
<p>木づかいガイドライン</p> <p>矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第9回WG (今年度の進め方、皆を木の世界に誘うためのブレインストーミング) ・ 第10回WG (木づかい推進のブレークスルーのためのブレークストーミング) ・ 第11回WG (木づかい推進のブレークスルーのためのブレークストーミング) ・ 第12回WG (木づかい推進のテーマの絞り込み) ・ 第13回WG (着地点・決めのポイント出し) ・ 第14回WG (着地点・決めのポイント出し) ・ 第15回WG (ガイドラインイメージ創出) 	<p>〔進捗〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木づかいガイドラインの作成目的について共有化ができ、メンバーそれぞれにとっての木への想いについて意見交換ができた。 ・ 作成に向けてWGの場でブレインストーミングを行い、活発な意見交換ができた。

(1) 山村再生担い手づくり

■今年度活動により分かったこと

《先進活動団体の生の声》地域の苦悩や喜びや課題に触れ、情報を共有する。

- 実際に活動する団体の生の声を取材できるため、苦労話や活動に伴う葛藤を聞いた。例えば以下のような観点で山村再生の担い手支援につながる情報を収集できた。
 - 実体験に基づいたアドバイス（Iターンで地域に入ってくる方に向けた心得など）
 - 地域の課題解決手法。（空き家対策など）



取材時の巻割りの実演



取材先団体の活動の様子

《新たな交流の芽生え》新しい交流が生まれることが次の取組につながることになる。

- 地域の盛り上げを矢作川流域圏との交流により実現したい団体もあった。矢作川流域圏懇談会の中でツアーを組んでほしいとの声も出た。
- 海や川のカテゴリーの人が山の団体取材することで新しい交流が生まれた。

■運営方針に見る活動進捗状況

〈活動進捗状況〉

- ・ 取材者として、海部会や川部会に所属する懇談会メンバーの参加もみられ、連携という面でも一定の成果が出た。一方で、参加者そのものの数が伸び悩んだ点で課題がある。
- ・ アウトプットイメージとして、地域部会にて編集集中の事例集（案）を提示した。
- ・ 今回の取材で得た活動団体とのネットワークをいかしつつ、流域圏懇談会の活動につながっていければよい。

■今後の課題

- 事例集を通じた出会い・ネットワークを活用した流域圏活性化に向けた仕組みづくりが必要。

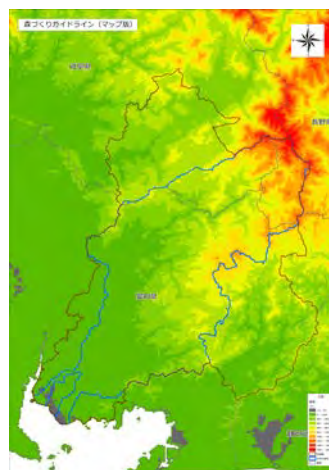
(2) 森づくりガイドライン

■今年度活動により分かったこと

《実態把握に資する情報収集》矢作川流域圏の森の全体像を理解するための情報収集をする。

- 森づくりガイドラインの作成の前に、森づくりの実態をリストアップする材料を収集。川部会、海部会、流域圏の住民が一目見て、矢作川流域圏の森の全体像が理解できる資料の作成をはじめた。現時点で以下の資料収集・整理を行うことができた。

- 地形図や植生図などの現況図の作成
- 地区別森林の基礎データの収集
- 各地区でアピールしたい森づくりの事例収集
- 市境・県境を超えた連携による森づくりの事例
(※今後収集していくことの周知)



地形図の作成

《WGメンバーの拡張》流域圏を構成する行政へ趣旨説明と作成目標の情報共有が図られた。

- 矢作川流域圏を構成する県市村へ趣旨の説明と作成の目標について情報の共有が図られた。
 - 国：林野庁中部森林管理局
 - 県：愛知県農林水産部 農林基盤担当局林務課、環境部水地盤環境課、豊田加茂農林水産事務所林務課（出先事務所）、西三河農林水産事務所林務課（出先事務所）／岐阜県林政部森林整備課、岐阜県恵那農林事務所（出先事務所）／長野県林務部森林政策課、長野県下伊那地方事務所（出先事務所）
 - 市町村：恵那市
 - その他：矢作川水源基金

■運営方針に見る活動進捗状況

〈活動進捗状況〉

- ・ 実態把握としての「矢作川流域圏の森づくり」の作成が開始され、一部資料の収集・事例紹介が行われた。
- ・ 今後、ガイドラインを作成していくためのメンバーとして、国・県・団体へ作成の主旨および協力の要請を行うことができた。

■今後の課題

- ガイドラインの作成にむけた各種資料収集が多岐にわたるため、情報収集の仕組みづくりが必要。

(3) 木づかいガイドライン

■今年度活動により分かったこと

《多くの意見が出た「木材利用の推進」について》WGにてブレーストーミングで実施。

- 矢作川流域圏の木材利用を3県の住民・字御者・行政が一体となって推進するきっかけづくりについてブレーストーミングにて行った。ブレーストーミングの観点は以下の通り。
 - 「森や木を好きになったきっかけや原体験、感動した場面、その感動を知ってもらうにはどうしたらよいか」について
 - 「森や木がこんな風になればいいのに」と感じることや「そのために取り組む内容」について
 - 「森や木を前にして、“これではいけないのでは”、“もっとこうなればなあ”、“こんな風になればいいのに”と思うこと」について
 - 「どのようなガイドラインを作っていくか」について
 - 「ライフステージアタック表を用いた“木づかいガイドラインの着地点とイメージの共有”」について



木材の多様さについての紹介



ブレーストーミングの様子



WGでの意見交換の様子

《ガイドラインへの掲載に必要な多様な情報》求められる新たなパートナー

- ガイドラインに盛り込むべき内容は多様でその情報量も多いことが分かった。特に市民目線での情報が木づかいの推進につながるため、今後は新たなパートナーを集うことになった。
- 今後の新たなパートナーは以下の通り。
 - 林業普及指導員／モニター的市民／素人山主／工務店／建築士／木工品展／木工クラフトマン／ナイス等木材流通業者／道の駅／アウトレット商品取扱店

■運営方針に見る活動進捗状況

〈活動進捗状況〉

- ・ 限られた時間の中でブレーストーミングによる意見収集を行い、多様なメンバーから多くの意見収集が行えた。また、内容の構成や着地点についての議論や意見収集も行っており、作成の材料が収集できた。
- ・ 現時点でのWGメンバーにとどまることなく、新たなパートナーの募集等も視野に入れたメンバー増員の企画が行われた。

■今後の課題

- 多様な情報をガイドラインとして取りまとめていく際、メンバー間の役割分担や作業分担について共有しておくことが必要。

4. 山部会全体及び他部会との連携における活動進捗と課題

■運営方針に見る活動進捗状況

〈運営方針からみる取り組み状況〉

- ・ 3つのテーマについて、**それぞれ作業WGを立ち上げ、内容の検討を行い、全体WG（現在の山部会WG）にて、情報共有**を図る。
（「運営方針（1）全体WGと個別作業WGによる運営」より）
- ・ 当初3ヶ年ではコアとなる検討メンバーは決定したが、コアメンバーだけでは策定が難しいことから、**作業メンバーの確保と活動を通じて作業メンバーの拡大**を図る。
（「運営方針（2）当面は検討体制づくりと作業の進め方の共有」より）
- ・ 実際の作業工程や役割分担について、メンバー間で共有した上で、事例集、ガイドラインの策定作業へ移行する。
（「運営方針（2）当面は検討体制づくりと作業の進め方の共有」より）
- ・ **事例集やガイドラインは更新していくことを前提**として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、**柔軟に見直し**を行っていく。
（「運営方針（3）できる取組みから実行する」より）
- ・ 事例集やガイドラインを活用した取組みは、山部会構成メンバーが**できることから試行的に行っていく**。

〈他部会との連携方針からみる取り組み状況〉

- ・ 事例集のヒアリングを山川海メンバーで行うことで、流域圏一体化のきっかけにする。（「運営方針 他部会との連携方針」より）
- ・ できれば、市民会議の活動として位置づけ、市民中心で活動展開を行っていく。（運営方針「他部会との連携方針」より）

〈活動進捗状況〉

- ・ 4つのWGのうち、今年度着手した3つのWGについて各作業部会の活動報告と活動に対する意見交換が行われており、WGも一定の進捗があった。
- ・ メンバーも参加者の総数は増加傾向にあるものの、市民の参加が必ずしも多くないことは課題としてとらえられる。

■連携上の課題

- 作成した事例集やガイドラインを効果的に周知していく場や仕組みづくりが必要。
- 他部会との連携は一部みられたが、活動の輪そのものを他部界へ広げるには至らなかった。

矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol. 1



発行日：平成 25 年 7 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第9回山部会WGを開催しました！

6月29日（土曜日）に第9回山部会WGが開催され、H25年度のWGがスタートしました。

WGでは、今年度の活動計画として、今年度実施する4つの活動の内容と進め方について話し合いました。

日時：平成 25 年 6 月 29 日（土）9:00～14:00
場所：根羽村老人福祉センター
参加者：21名（事務局含む）



◆主な会議内容

今年度以降の山部会運営方針 ～山部会でとりくむ4つのこと～



1. 山村再生担い手づくり事例集について

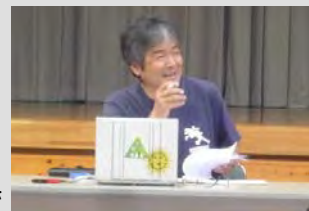
山村再生担い手づくり事例集の作成は、矢作川流域の中山間地域振興に関わる団体・個人の活動情報を共有し、ネットワーク化を支援していくことを目的としています。



今回は、調査する活動団体（21団体）と根羽村・恵那市・豊田市・岡崎市それぞれの担当者を決定しました。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

矢作川流域山村ミーティングは、流域圏全体で山村再生のアイデアについて話し合うことを目的にしています。



まずは恵南地域の山村で7月17日に開催予定の「いっぺん寄ってみよまいか～結の炭家でアイターンゆんたく」をきっかけに1ターン者同士の交流を通じて進めていきます。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

矢作川流域圏森づくりガイドラインは、流域圏の森の将来の姿と実現手段について提示することを目的としています。



ガイドラインの作成にあたり流域圏の森を構成する3県の関係課へ、座長と事務局でガイドラインの作成趣旨について説明に行くこととなりました。

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

矢作川流域圏木づかいガイドラインは、矢作川流域圏の木材利用を住民・事業体・行政が一体となって推進するきっかけづくりを目的としています。ガイドラインは3カ年かけて策定することとし、まずはターゲットを明確にするためのアイデア出しについて、「ブレインストーミング方式」で実施することとなりました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- 団体そのものよりも団体が取り組んでいる活動に着目することがよい。(丹羽)
- ヒアリング時には、団体が「どんな仲間を求めているのか」が分かるとよい。(今村)
- 団体の持つ悩みや課題に対し流域圏懇談会の参加者がどのように関わられるのかも重要。(今村)
 - ▶ 今回出された意見を踏まえ、7月に開催予定の次回WGで企画案を示す。(洲崎)



より具体的に話し合う「事例集ワーキング」を同日午後を開催しました！

- 取材のとりまとめを行う団体が決まりました。
- 取材先団体にあわせ地域毎に担当者を決めました。(根羽村 南木氏、恵那市 丹羽氏、豊田市 洲崎氏、岡崎市 沖氏)
- 取材先団体は、根羽村3団体、恵那市3団体、豊田市12団体、岡崎市3団体の合計21団体としました。
- 取材先団体の選定は「なぜその団体なのか？」について情報共有するため推薦の言葉を考えることとしました。

●矢作川流域山村ミーティングについて

- ミーティングは、それぞれの森林組合が抱える悩みを全員で話し合うことを目的として行い、搬出時の課題や悩みを雑談形式でやることを考えている、人が集まるかが心配。(今村)
 - ▶ 作業員が出席するための理由付けが重要。(松井)
- 森林組合そのものは、人の問題というより森の問題に関係が深いので、ミーティングについては森林組合にこだわる必要はないのではないかと考えている。(蔵治)



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- ガイドラインの検討体制として、関連する自治体の担当課に協力を要請したい。(蔵治)
 - ▶ 長野県森林政策課と林野庁に対しては、参加の呼びかけ・働きかけが可能。(今村)
- 県の担当課へ作成趣旨の説明に行くため、8月又は9月くらいから議論開始予定。(蔵治)
- マッピングの作成については、愛知県所有の森林GISのデータが使えると考えられる。(原田)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ガイドラインは3カ年かけて策定することを予定。参加者の思いを含めて心のあぶり出しを行うことを目的に、「ブレインストーミング方式」でアイデア出しを行う。(今村)
- ガイドラインはストーリーを重視した読み物とすべき。(丹羽)
- 流域圏懇談会のアピールを目的とした流域圏製品を商品化していくことも面白い。(城田)



ふりかえり



会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。

よかったことと思うこと

事例集づくりに向けて、調査対象も出てきて、次回までのみんなの結果が楽しみ/流域でつながる情報が得られました

よくなかったと思うこと

山の百姓が、ほとんどいない場で進められている/課題が煮つまるにつれ、違和感が増している

今後取り組んでいきたい活動など

懇談会ウェブサイトを抜本的に改善したい/事例集の第1集を作り上げる事/山村再生担い手づくり事例集作成/流域材利用の方向性

今後のスケジュール (予定)



次回のWGを7月20日(土)9時から根羽村老人福祉センターにて開催します。

◆情報提供



- いっぺん寄ってみよまいか〜結の炭家でアイターンゆんたく〜：7月17日(水)18時〜宿泊OK
- 森女の森づくり〜林業女子のスズメ in 美濃市〜：7月28日(日)9時30分〜16時
- 岡崎のきこり塾 講演会(ぬかた会館)：10月6日(日)13〜17時





発行日：平成 25 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 10 回山部会WGを開催しました！

7 月 20 日（土曜日）に第 10 回山部会WGが開催されました。
今回の WG では、山部会で取り組んでいる 4 つのこのうち、山村再生担い手づくり事例集と矢作川流域圏木づくりガイドラインの 2 つについて話し合いました。

日時：平成 25 年 7 月 20 日（土）9:00～12:00
場所：根羽村老人福祉センター
参加者：12 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



矢作川流域の中山間地域振興に関わる団体・個人の活動情報を共有し、ネットワーク化を支援していくことを目的とした山村再生担い手づくり事例集は、山村の担い手のいる現場に行き、直接、現場の人たちの苦悩や喜び・課題に触れることを目的とした調査からはじめることとなりました。

調査の概要は以下の通りです。

- 調査先団体：根羽村、恵那市、岡崎市、豊田市の山村で活動する団体（具体的な団体名は裏面参照）
- 調査者の決定：調査参加希望者を募集し、山部会で調整し決定します。
- 調査の方法：質問の方法・聞き方などは、調査する人の自由ですが、質問の内容は、マニュアル（作成中）に記載のある項目とします。また、1 団体あたり 2～3 時間かけて調査をし、2 人位で実施することを想定します。



2. 矢作川流域圏木づくりガイドラインについて



矢作川流域圏木づくりガイドラインは、矢作川流域圏の木材利用を住民・事業者・行政が一体となって推進するきっかけづくりを目的とし、3 力年かけて策定する予定です。

1 年目の今回は、「木づくりガイドラインははじめの一歩」として、参加者の方々が、「森や木を好きになったきっかけや原体験・感動した場面と、その体験を他の方に知ってもらうにはどうしたらよいか」について意見を出し合いました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

山村再生担い手づくり事例集について

●調査マニュアルについて

- 活動範囲が広域な団体もある。地図などを差し入れて紹介すればよいか。教えて頂きたい。(原田)
 - ▶ 活動範囲の記載の考え方は、活動拠点と活動範囲の両方を記載することがよい。(洲崎)
- 調査の行い方は取材に行く人のやり方に任せることでよいか。(今村)
 - ▶ よい。2人位で伺い、1団体2~3時間かけてやる。一日で多くても3団体程度の調査をこなすことを考えている。(洲崎)
- 調査先のインタビュー相手によって内容が変わるのは適切でないので、聞き取り相手の選定は、この点を意識して行うことがよい。(蔵治)

●聞き取り相手について

根羽村、恵那市、豊田市、岡崎市それぞれの活動団体の概要について、情報共有を行いました。そのうえで、実際の聞き取り相手について検討しました。

現時点での聞き取り先の団体は以下の通りです。

根羽村：根羽村森林組合、根羽杉っこ餅、根羽村猟友会

恵那市：恵南森林組合、NPO 法人東濃・森林づくりの会串原支部、NPO 法人奥矢作森林塾、NPO 法人福寿の里自然倶楽部

豊田市：矢作川水系森林ボランティア協議会、とよた森林学校、とよた都市農山村交流ネットワーク、豊森なりわい塾、株式会社 M-easy、旭木の駅プロジェクト、千年持続学校、おむすび通貨、green maman、農業法人みどりの里

岡崎市：NPO 法人中部猟踊会、岡崎森林組合、おおだの森保護事業者会(山留舞会-やるまいかい)、じさんじょの会



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- 森や木を好きになったきっかけや原体験・感動した場面と、その体験を他の方に知ってもらうにはどうしたらよいか」について意見を出し合いました。主な意見は下記です。

- ▶ 幼少の頃から木工が好きで、人工林の間伐を通じて森林にはまっていた。(原田)
- ▶ 森が身近な地域で育った。積木がぶつかり合うときに出る音等、木のもつ感覚がよい。(城田)
- ▶ 子供にとっては、森の手入れに使う道具などはスリルがあって面白い。(斉藤)
- ▶ 小学生の頃、工作で木工玩具を作り、道具の使い方を覚え、その後遊びが本格化した。(石原)
- ▶ 幼少の頃、家族で行く山登りが好きだった。木の匂いは安心感を与えるので好き。(長谷川)
- ▶ キャンプ時の悪天候に木の下で雨宿りをした際に、安心感を覚えたことが印象的。(森)
- ▶ 鎌倉の山と海で育つ。山と海には生きていく知恵が沢山あると感じている。(黒田)
- ▶ 生き物と木が好き。木のよさに魅せられ、少し前に自宅を間伐材で張り替えた。(沖)
- ▶ 北海道育ち。森には近寄ってはいけないルールがあったが隠れて遊ぶのが楽しかった。(南木)
- ▶ 東京都内でも奥多摩や飯能の山に親しみながら過ごした。小学生の時に作った木工作品を先生に褒められたことが印象的。都会の人に山に来てもらってイベントなどをするとよい。(蔵治)
- ▶ 学生時代、狭山丘陵で懐かしい風景に出会う。木に抱きつくほど感動し、研究者を志す。(洲崎)
- ▶ 子供の頃、犬小屋を木で制作した。登山が好きで、山頂から見る風景に感動している。(今村)

- 次回は「森や木がこんなふうになればいいのに」と感じることや、「そのために取り組む内容」について自分なりに考えておいて頂きたい。(今村)

- 映像、写真、子供の頃に自分で作った作品などがあると議論が盛り上がる。(今村)



今後のスケジュール(予定)

次回のWGを8月17日(土)に豊田市役所足助支所にて開催します。

◆情報提供

- 2013年11月2日(土)・3日(日/文化の日)：第6回いい川・いい川づくりワークショップ開催



矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol.3



発行日：平成 25 年 8 月 ●日
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第4回山の地域部会・第11回山部会WGを開催しました！

8月17日（土曜日）に第4回山の地域部会・第11回山部会WGが開催されました。

今回のWGでは、山部会で取り組んでいる4つのことのうち、山村再生担い手づくり事例集と矢作川流域圏木づくりガイドラインの2つについて話し合いました。

日時：平成 25 年 8 月 17 日（土）9:00~12:00

場所：豊田市役所 足助支所 2階 第2会議室

参加者：15名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 第4回山の地域部会にて、役員の変更を行いました。



第4回山の地域部会にて、矢作川流域圏懇談会規約に基づき、役員の変更を行いました。

座長に東京大学大学院の蔵治光一郎准教授、副座長に岐阜県立森林文化アカデミーの丹羽健司非常勤講師が改選されました。



2. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくり事例集の作成に向け、山村の担い手のいる現場に行って、直接、現場の人たちの苦悩や喜び・課題に触れることを目的とした調査を行います。

今回は、取材調査の募集方法や具体的なスケジュールについて話し合いました。10月の取材調査開始に向けて、着々と準備が進んでいます。



3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



今回は「木づかいガイドラインはじめの一歩」として、参加者の方々が「森や木を前にして、これではいけないのでは、もっとこうなればなあ、こんな風になればいいのに」と思う点について意見を出し合いました。

身近にある木の暮らしをイメージしながら、流域の木材利用や木工製品の活用方法について、多くの意見が出されました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集の作成にあたり、取材調査の実施にあたっての具体的なスケジュールと取材先への協力依頼文、取材者募集のメール文面の案について話し合いました。会議の中で出た意見を反映し、10月の調査に向けて準備を進めます。

出た意見

- 取材者募集の文面には、取材先の選定は「自発的で優れた活動団体」を対象としていることを付け加える。(蔵治)
- 取材の申し込み後、参加者の希望に沿うように取材先とのマッチングを行うが、必ずしも希望通りにならないことを記載しておく。(丹羽)

2013年度スケジュール案

今年度のスケジュールを以下のように予定しています。

・8月17日(日)	山部会WGでの作業
・~8月25日(日)	取材先の連絡先・連絡方法確認
・~9月6日(金)	取材先への連絡と取材の可否確認
・9月7日(土)~9月27日(金)	取材者の募集
・10月1日(火)~10月14日(火)	取材先と取材者のマッチング、取材者への連絡(取材方法と取材先の通知)
・10月15日(水)~12月28日(土)	アポイントメント、聞き取り、レポート提出
・1月6日(月)~2月28日(金)	2013年度山村再生担い手づくり事例集作成、交通費精算



参加者の募集について

- 山川海の連携が大切。山部会のメンバー以外にも川と海からの参加があるとよい。(丹羽)
 - ▶メールによる呼びかけに加え、川部会、海部会が開催する会に説明へいき案内することがよい。(蔵治)
 - ▶8月26日の川部会と9月9日の海部会に出向き、周知してくる。(丹羽)
 - ▶8月21日の市民会議に出向き、周知してくる。(洲崎)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインの作成のはじめの一歩として、「森や木を前にして、これではいけないので、もっとこうなればなあ、こんな風になればいいのに」と感じることにについて、ブレーストーミング方式で意見を出し合いました。主な意見は以下です。

【木づかいガイドラインについて】

- ▶職業柄、木づかいガイドラインの作成は形式から考えてしまうので、今回のやり方は、消費者目線・利用者目線で考えられるためよい。(原田)
- ▶矢作川流域に住んでいることの意味は、流域市民の暮らしの質が上がる、価値が上がるということにつながる。(相川)
- ▶ガイドラインはみんながわかるものがないとだめ。書店でマイサイズが入ったキットを売るなども面白い。(城田)
- ▶立っている木に親しめる機会があるとよい。森を明るく。歩いて楽しい林にできればよい。(洲崎)
- ▶木づかいガイドラインと森づくりガイドラインはリンクしていないといけない。(黒田)
- ▶工務店とのブレーストーミングを通じて意見交換などができるとおもしろい。(蔵治)

【木材利用の推進について】

- ▶旭の交流館から依頼があり、木や森に関することを子供たちに伝えるイベントをした。子供は将来性があるので、木の良さをわかってもらえるとよい。木材でつくられた小学校などを通じてPRしたいが、森林組合だけで行うのは困難。(松井)
- ▶人間のライフサイクルを考えると、どの時代も同時期に同じものを購入しており、木材も今後、チャンスがある。(相川)
- ▶総無垢のベビーベッドがある。世の中にはファーストウッドという考えもある。(蔵治)
- ▶ファーストウッドで地域振興している上飯田の例がある。(原田)
- ▶机、ランドセルなど成長に応じて木を用いた製品を使ってもらう手もある。(丹羽)
- ▶北海道のエコビレッジでは、自分達で使うものを自分たちで作る。生活の中にあるものは意外と自前でできる。(城田)
- ▶普通の人々が作れるものを品目に入れるべきだし、そのようなものの中には雇用を生み出すのはたくさんある。(城田)
- ▶木の駅プロジェクトに関連し、ちょっとした木工が可能となる機器をおいておけばよい。(南木)
- ▶日曜大工は道具をそろえればその気になればできる。(丹羽)
- ▶リフォームへの補助金(城田)
- ▶豊田森林組合では、工具そのものを貸し出すことはしないが、組合で実施する体験学習に参加した方には、使ってもらっている。講座が終わった人がまた使いたいといってくることもある。(松井)

今後のスケジュール(予定)

次回のWGを9月13日(土)に元気村にて開催します。





発行日：平成 25 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

第 12 回山部会WGを開催しました！

9 月 14 日（土曜日）に第 12 回山部会WGが開催されました。
今回の WG では、山部会で取り組んでいる 4 つのうちのうち、山村再生担い手づくり事例集と矢作川流域圏木づかいガイドラインの 2 つについて話し合うとともに、森づくりガイドラインの進捗状況について情報提供がありました。



日時：平成 25 年 9 月 14 日（土）9:00～12:00
場所：旭高原元気村 研修室
参加者：16 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 矢作川流域圏森づくりガイドラインの進め方（進捗状況）



矢作川流域圏森づくりガイドラインは、流域圏の森林はこのような森林であって欲しいと願う姿を示し、同時にそれを実現するための手段について、提示することを目的としたガイドラインです。

このガイドラインづくりには、流域圏を構成する行政の方の参加が不可欠であるため現在、関係行政機関への主旨説明を行っているところです。次回の第 13 回山部会 WG で関係行政機関の方にもご出席いただき、ガイドラインの策定準備が開始される予定です。



2. 山村再生担い手づくり事例集について



10 月の下旬から 12 月にかけて、山村再生担い手づくり事例集の作成に向けた取材調査（山村の担い手のいる現場に行き、直接、現場の人たちの苦悩や喜び・課題に触れることを目的とした調査）を行う予定です。

今回は、取材調査の募集方法や具体的なスケジュールについて話し合いました。10 月の取材調査開始に向けて、取材者への連絡などの準備が進んでいます。



3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



今回は前回に引き続き「木づかいガイドラインははじめの一步」として、大好きな森や木についての素敵な本をガイドラインに見立て、参加者の方々が「これから作りたい素敵な本の内容とはどのようなものか」について意見を出しました。

また、第 10 回、第 11 回山部会 WG で行ったブレインストーミングの結果についてもふりかえり、今後、どのようなガイドラインを作っていくか話し合いました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見

●山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集の作成にあたり、取材調査の実施にあたっての具体的なスケジュールと取材者増加に向けた方法について話し合いました。会議の中で出た意見を反映し、取材者を集いつつ、10月の調査に向けて準備を進めます。

出た意見

- 取材者をもう少し増やす必要がある。流域圏のメンバーを基本として個別に呼びかけを行ってほしい。
- 仮に人数が増えなかった場合、その人数で複数地点を取材してやりきることとする。

2013年度スケジュール案

- 今年度のスケジュールを以下のように予定しています。

・～8月25日(日)	取材先の連絡先・連絡方法確認(各地区担当)
・～9月6日(金)	取材先への連絡と取材の可否確認(事例集事務局)
・9月7日(土)～9月27日(金)	取材者の募集(事例集事務局)
・10月1日(火)～10月14日(火)	取材先と取材者のマッチング(事例集事務局) 取材者への連絡(取材方法と取材先の通知)
・10月15日(水)～12月28日(土)	アポイントメント、聞き取り、レポート提出(取材者)
・1月6日(月)～2月28日(金)	振り返り 2013年度山村再生担い手づくり事例集作成



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインの作成のはじめの一歩として、「森や木を前にして、これではいけないので、もっとこうなればなあ、こんな風になればいいのに」と感じるということについて、ブレーストーミング方式で意見を出し合いました。主な意見は以下です。

【木づかいガイドラインのイメージについて】

- 山の暮らし、森の暮らし、木のある暮らしという点では音の風景というものが強い。木を切る音、薪を割る音がすると冬がやってくるという感じる。(黒田)
- 山の中で田んぼ仕事をしていても木のざわめきなどがすると寂しい感じがしない。最近は木造のいい建築物などが減ってきたが、日本人はこの100年間で木の価値を知らないまま作り替えてきた印象もある。(沖)
- 音の風景に加えて木の匂いや森らしい癒される絵などがあれば、視覚に訴えかけできると同時に心のスイッチが入る。また、木や森に関する世の中の誤解を解消するようなネタが、本の中にコラム的に入っていると面白い(長谷川)
- かつては木造2階建ての小学校があった。そういうのを見ると懐かしい気持ちになる。(後藤)
- 森林の減少や重要性について日常生活でなかなか触れられないのでそのあたりを本の中で訴えられるとよい。(西原)
- プロの方が知っているマニアックな内容があると取り付きやすい。(森)
- トトロなどのアニメを通じ、木や森を知った。森の不思議なところをドラマやアニメで表現することは有効だと思う。(石原)
- 心のスイッチは魚釣りのときに入る。明らかに魚が釣れそうな雰囲気がある場所を見つけるとワクワクする(南木)
- 学校は学問を教えるところではなく、感性を教えるところだと言われている。人工物であるコンクリートで造られたマッチ箱のような校舎で感性が養われるわけがない。その意味で「近代化・人工物が優れているところ」をこれから改めて見直していく時期と考えている。(原田)
- これからの世代を担うこともたちにも読んでもらうことが重要。専門書とうよりもう少し柔らかいイメージがよい(松井)
- 宮沢賢治の「狼森と笹森、盗森」という本が好き。木が語る言葉を理解できる人が、森の中を歩いている時に、木が人間に話しかけてくる本があると素敵。木の言葉を聞きに森の中に行ってみたくなれるとよい。(洲崎)
- これまでに人間が行ってきた近代化や、木の話していえば密閉化された構造物などの解消に取り組むなど、今一度見つめ直ししていくことが必要だと思う。(長澤)

【木づかいガイドライン(市民編)】

みなさんの意見をひまえ、今後、どんな木づかいガイドラインにしたいか考えていきます。

読むと行動したくなる本／読むと人に会いたくなる本／読むと人に話したくなる本／読むと人にあげたくなる本／読むと市民として参加できる本／読むとライフスタイルに影響を与えられる本／読むといいものと出会ったことを実感させられる(わくわくする)本／自分たちが作ったから人にあげたくなる本／自分たちが作っておいて良かったと思う本／「矢作川ディズな人たち」を定義してしまう本(イメージ)



今後のスケジュール(予定)と情報提供



次回のWGを10月21日(月)に豊田市職員会館にて開催する予定です。
第6回いい川・いい川づくりワークショップが11月2日・3日に開催されます。



矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol.5



発行日：平成 25 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

第 13 回山部会WGを開催しました！

10月21日（月曜日）に第13回山部会WGが開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づくりガイドラインの3つのプロジェクトについて話し合いました。

日時：平成 25 年 10 月 21 日(月) 15:00～17:00
場所：豊田市職員会館 3F 第1部室
参加者：18名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくり事例集の作成にあたり、取材を企画しておりましたが、9月末までを募集期間として、15名の方々が集まりました。参加者と取材先のマッチングを10月7日に行いました。年内をめどに取材を終える予定です。

11月26日に中間報告会を実施して、取材の進め方や取材結果を情報共有します。年明けにふりかえりを行います。引き続き取材者を募集します。ご興味がおありの方はぜひご参加ください。



2. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



愛知県本庁林務課、豊田加茂事務所、西三河事務所を訪問しました。前回のWGから今回までに、新たに5か所（林野庁中部管理名古屋事務所、長野県本庁林務課、岐阜県本庁林務課、愛知県水地盤環境課）に趣旨説明を目的とした訪問をしました。

森づくりWGは平日の開催とし、会場は4地区を持ち回りすることで、すすめていきます。



3. 矢作川流域圏木づくりガイドラインについて



矢作川流域圏木づくりガイドラインは、その着地点とみなさんのイメージを情報共有しました。特に「矢作川デイズ 木づくりガイドライン ライフステージアタック表（イメージ案）」を参考に、ガイドラインの内容として、参加者皆さんが大事にしたい事柄について意見として出すこととなりました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



◆話し合いでの主な意見

●山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集の取材調査がいよいよはじまります。
9月末までに集まった15名の方々に加え、今回、WGに参加者した方からも参加したいとの声があがりました。

引き続き取材者を募集しています。特に、海部会や川部会などの分野が異なる人の参加が大変よいとの意見もありました。

11月26日に予定されている中間報告では、取材結果を情報共有し、その後の取材方法などについて、確認を行う予定です。



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインの策定は流域圏の行政が関与するため、現在、ガイドラインの趣旨説明と協力要請を行っています。愛知県への訪問が完了しており、今後、岐阜県、長野県等へ出向き、今年中には関係行政を訪問しきる予定です。

訪問した関係団体) 国: 林野庁中部森林管理局名古屋事務所/愛知県農林水産部 農林基盤担当局林務課、環境部水地盤環境課/愛知県出先事務所: 豊田加茂農林水産事務所林務課、西三河農林水産事務所林務課/岐阜県林政部森林整備課/長野県林務部森林政策課/矢作川水源基金

出た意見

- ガイドラインはカタログを作るイメージ、社会的にも全体像をだれもみたことがないので作る意義が大きいと考えている。(蔵治)
- データのアップデートのタイミングを考慮してとりまとめていけるとよい。(城田)
- 木材搬出量の把握は容易ではない。間伐材は補助事業を使っているので申請書を見ると把握が可能と考えられる。(原田)
- ガイドラインとしてどこまでまとめることが可能か、事務局の考えもお聞きしたい。(蔵治)



●矢作川流域圏木づくりガイドラインについて

木づくりガイドラインについては、ライフステージ別に整理したアタック表をもとに、次回の山部会WGで話し合うこととなりました。

次回のWGまでにメンバーそれぞれから、アタック表のどの部分を大切にしてガイドラインを作成していきたいか、考えてくることとなりました。



●その他(会の持続的な運営を目指して)

各ワーキングが動き出していて一定の進捗が確認できているものの、今後、よりよいものを作ろうとすると予算的にも人員的にも一定の限界があるとの指摘があり、来年度以降の会の運営についても考えていく必要があるとの認識が共有されました。

出た意見

- 事務局としての考えも今後聞きながら進めていきたい。(蔵治)
- 任意団体をつくって助成金をとることも可能。(黒田)
 - 助成事業の結成そのものが成果と考えることもできる。(丹羽)



今後のスケジュール(予定)と情報提供



次回のWGを11月9日(土)に恵那市にて開催する予定です。
第6回いい川・いい川づくりワークショップが11月2日・3日に開催されます。



矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol.6



発行日：平成 25 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 14 回山部会WGを開催しました！

11月9日（土曜日）に第14回山部会WGが開催されました。
今回のWGでは、山部会で取り組んでいる4つのことのうち、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域圏森づくりガイドライン、木づかいガイドラインについて話し合いました。



日時：平成 25 年 11 月 9 日（土）9:30～12:30
場所：奥矢作レクリエーションセンター 大会議室
参加者：16名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくり事例集の作成に向けてのヒアリングの実施状況及び、今後のヒアリング調査の予定について話し合いました。
これまで2団体にヒアリング調査を実施し、今後19団体にヒアリングしていくことを確認しました。



2. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインの作成に向けて、関連する自治体への意向把握結果の報告と、流域圏の「森づくり」をリストアップすることを話し合いました。
リストアップについては、①現況図、②地区別の森林基礎データ、③各地区でアピールしたい流域圏の森づくりの事例、④市境・県境を越えた連携による森づくりの事例を対象とすることを確認しました。



3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



木づかいガイドラインについては、ライフステージ別に整理したアタック表をもとに話し合いをしました。
話し合いの中では、表の中に現在行われている事例を入れてみる、対象として、素人山主や購買層を追加する、木工製品をつくる人との連携を図るなどの提案が出されました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

山村再生担い手事例集づくりに向けたヒアリングの実施状況について確認しました。

○実施した感想

- ・NPO 法人福寿の里自然倶楽部へのヒアリングでは、流域圏の交流に向けた前向きな提案があったので、福寿の里で山部会WGを開催したらどうか。(洲崎)
- ・とよた都市農山村交流ネットワークへのヒアリングでは、豊田と岡崎の熱い交流ができたことがよかったと取材者が喜んでいました。(長澤)



○今後の実施予定

- ・ねばっこ餅(11/27)、恵南森林組合(12/11)、NPO 法人奥矢作森林塾(12/8)、株式会社 M - easy(11/27)、旭木の駅プロジェクト(11/27)、green maman(11/26)、農業法人みどりの里(11/15)
- ・11月26日は中間報告会を開催。

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

ガイドラインの作成に向けて、関連する自治体へのヒアリング結果の報告と今年度とりまとめるガイドライン内容、役割分担を話し合いました。

○実施した感想

- ・愛知県は流域圏懇談会についてあまり認識されていない感触を受けた。(蔵治)
- ・岐阜県、長野県、中部森林管理局について重要性を理解しており、一緒に検討していきたい意向を持っているようである。(蔵治)



○今後の実施予定

- ・現況図については、C T I が用意することでいいか。(蔵治)
 - ▶ よい(土屋)
- ・植生図については提供が可能である。(洲崎)
- ・森の健康診断のデータがあれば重ね合わせできないか。(丹羽)
 - ▶ G I S で作成されたデータを提供頂ければ対応は可能。(土屋)
- ・地区別の森林の基礎データについて、間伐実績は、岡崎と豊田は調査が可能。それ以外は、各組合で対応してほしい。(蔵治)
 - ▶ 恵南森林組合では、流域内の集計はないが、全体では把握可能。(大島)
- ・検討にあたっては、林業指導普及員も同じテーブルについてもらってはどうか。そうすれば、森林に関するデータや事例なども出やすいのでは。(今村)
- ・現場のことは、森林施業プランナーに聞けばいいのでは。情報量がすごい。(丹羽)
- ・今年度は、現況図の作成と地区別の森林の基礎データをあつめるまでにしたい。(蔵治)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインについて、ライフステージ別に具体的な内容を記載したものに対しての話し合いを行いました。

- ・赤ちゃんから対象になっているのがいい。木のおもちゃで遊んだ人の方があそびの工夫ができ、リーダーシップにつながっている例がある。(松井賢)
- ・対象に素人山主も追加し、山に関心を持ってもらうきっかけになればいい。(丹羽)
- ・表の中に具体的な事例を入れていくといいと思う。その中で不足する部分も見えてくる。(丹羽)
- ・購買層もターゲットとして重要ではないか。(長澤)
- ・恵南森林組合では、定年者を対象に木工クラブとして製材所を開放してきたが、参加者があまり広がらなかった。人口が多くないと難しいのではないかと感じた。(大島)
- ・自分が森に入ることはハードルが高いため、木育や木工製品との関わりをつくるのが先決。しかし、矢作川で販売されているものは、丸太材であり、木工製品をつくる人との連携が重要ではないか。(蔵治)
 - ▶ 木育は大切であり、この地域でしかできないという概念をアピールしたい。(今村)
- ・ガイドラインで取り扱うものは、木づかいだけでなく、森づかいということだと思う。日常でできることと、現地に行かないとできないことに分けられる。(城田)
- ・豊田市では、セカンドスクールが大人気。田舎でできる普通のことが楽しまっている。(洲崎)



今後のスケジュール(予定)と情報提供



次回のWGは12月11日(水)に上矢作振興事務所基幹集落センターにて開催します。
次回の地域部会は1月27日(月)に開催します。

- ・2013年12月1日(日): いなかとまちの文化祭を開催



矢作川流域圏懇談会通信（案）

山部会編 vol. 7



発行日：平成 25 年 12 月 11 日
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 15 回山部会WGを開催しました！

12 月 11 日（水曜日）に第 15 回山部会WGが開催されました。
今回の WG では、山部会で取り組んでいる 4 つのこのうち、今年度WGとして活動している山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域圏森づくりガイドライン、木づかいガイドラインについて話し合いました。



日時：平成 25 年 12 月 11 日（水）15:00～17:00
場所：恵那市上矢作振興事務所基幹集落センター 2F 中会議室
参加者：28 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくり事例集の作成に向けた取材について、取材者からなる取材の中間報告会で出た意見について情報共有を行いました。

これまで 15 団体にヒアリング調査を実施し、残りの 4 団体についてもヒアリングをすすめていくことを確認しました。

また、1 月に予定されている地域部会では、取材のレポートを提示し、メンバーからのご意見を募ることが案内されました。



2. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインの作成に向けて、関連する自治体への意向把握結果の報告と、今年度検討するガイドラインの内容について話し合いました。

ガイドラインについては、その内容を詰める前に、矢作川流域の全体像を把握する目的で「矢作川流域の森づくり」と題する資料を作成し、情報共有を図ることとしました。

今回は、「矢作川流域の森づくり」について一部の資料が示されました。



3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



木づかいガイドラインについては、今回はじめてWGに参加する方々との情報共有という面も含めて、これまでの活動経緯とあわせて、作成の目的、意見交換の結果等について共有しました。

そのうえで、来年度以降、木づかいガイドラインの策定に向けて行っていく作業とその方法について話し合いました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

これまでの取材の情報共有の場である中間報告会の中で出された意見について紹介がありました。

○実施した感想

- ・ 実体験に基づいたアドバイス（1ターンで地域に入ってくる方に向けた心得など）や地域の課題解決手法（空き家対策など）を聞いたことが大変興味深かった。（洲崎）
- ・ 新しい交流が生まれることが次の取組につながるようになる。（丹羽）
- ・ アウトプットは年度末の少し前にまとめたイメージでいる。全体会議には暫定版としてアウトプットイメージを配ることを考えている。（洲崎）



○今後の実施予定

- ・ 引き続き、まだ取材を行っていない団体と日程調整等を行い進めていくことが確認されました。また、1月に予定されている山の地域部会で取材レポートを出す予定で編集作業を行うこととしました。

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

ガイドラインの作成に向けて、関連する自治体へのヒアリング結果の報告と今年度とりまとめるガイドライン内容、役割

○実施した感想

- ・ これまでのWGの中で提案してきた資料収集が一部行えた。そのなかで、地域の森づくりに関するPRポイントは様々であることがわかった。（蔵治）
- ・ 今後の進め方としては、「森について」、「制度について」などの分類を行い、議論を進めることがよいと考えている。（蔵治）



○今後の実施予定

- ・ 地形図や植生図などをより見やすくするために市町村会等の表示は可能か。（蔵治）
 - ▶ 市町村行政界の明示は可能。これに加えて、ご意見いただいた矢作川や流域圏のダム、国有林と保安林の表示方法はわかるかたちで表示する。（長谷川）
 - ▶ 図面等のデータ整理については、年内までにメンバー間で照会をかけて意見収集をすることで対応する。（西原）
- ・ 森づくりのPRポイントについては、次回の会議で、岡崎市の取組を紹介してもらうこととする。（蔵治）



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインについて、これまでライフステージごとに木づかいの推進方策について、意見交換をしてきました。

今後は、ガイドラインの作成として市民目線を意識するため、ガイドライン作成にあたっての今後のパートナーとして次の分野の方々を、メンバーから推薦して共同して作成していくことが情報共有されました。

○今後の実施予定

- ・ 今回、はじめてWGに参加する方々を含め、今年度、意見交換を行ってきた内容をとりまとめた「木づかいガイドライン作成関連資料」をメンバーそれぞれでふりかえりしておくこととなりました。
- ・ 今後のパートナーについては、推薦者が根羽村森林組合の今村氏へ連絡することとなりました。

ガイドライン作成に向けた今後のパートナー

- ・ 林業普及指導員
- ・ モニターの市民
- ・ 素人山主
- ・ 工務店
- ・ 建築士
- ・ 木工品展
- ・ 木エクRAFTマン
- ・ ナイス等木材流通業者
- ・ 道の駅
- ・ アウトレット商品取扱店



今後のスケジュール（予定）と情報提供



次回の地域部会は1月27日（月）に開催します。





発行日：平成26年1月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第5回山の地域部会を開催しました！

1月27日（月曜日）に第5回山の地域部会が開催されました。今回の地域部会では、今年度、山部会が取り組んできた活動成果を報告するとともに、来年度の山部会の活動について話し合いました。



日時：平成26年1月27日（月）10:30～17:10
場所：岡崎市 めかた会館
参加者：38名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 今年度の山部会の活動成果報告



今年度の山部会の活動成果報告として、山部会の目標と課題解決のための活動テーマについてふりかえりました。特に、「山村再生担い手づくり」、「山村ミーティング」、「森づくりガイドライン」、「木づかいガイドライン」の4つのテーマについての内容を情報共有しました。

そのうえで、今年度全7回のWGを実施した内容について概観したうえで、各テーマごとに次のように進捗したことを確認しました。

各テーマの主な進捗の状況

- **山村再生担い手づくり**：山村で活動する団体への取材が実施できた。また、取材を通じて他部会との連携が実現した。
- **山村ミーティング**：今年度はWG化はしない方向としつつも、関連する他団体の活動などの情報共有ができた。
- **森づくりガイドライン**：森づくりガイドラインをよりよく理解するための「矢作川流域圏の森づくり」が行われ、メンバー間で情報共有が図られた。
- **木づかいガイドライン**：ガイドラインの作成目的が共有化され、参加メンバーそれぞれの木への想いについて幅広く意見交換ができた。



2. 来年度の山部会の活動について



来年度の活動として、まず今年度行ってきた活動の到達点を確認しました。また、3年で1サイクルする流域圏懇談会での活動成果（残りの2か年）について意見交換を行ったうえで、他部会との連携についての意見交換をするとともに、活動の運営方法や体制についてのアイデアなども意見交換されました。

山部会の活動としては、地域部会を含めて8回ぐらいを想定し、今年度同様に長野県域、岐阜県域、豊田市域、岡崎市域で各2回ずつやっていくことをメンバー間で共有しました。意見交換の詳しい内容は裏面をご参照ください。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●今年度の山部会の活動成果報告について

活動の成果報告については次のような意見が出されました。多くの意見が出たため、今回の資料の修正版については、座長である蔵治先生に一任することで、内容について合意されました。

○活動の成果報告についてのご意見

- ・活動成果と資料に記載があるが、3か年を1サイクルととらえた際、今年度はその1年目に過ぎないため、成果ということで評価されることは必ずしも適切でない。(蔵治)
- ・森づくりガイドラインについては岐阜県、長野県の各出先事務所と恵那市へ趣旨説明に行っておりその点を修正する必要がある。(蔵治)
- ・活動の進捗状況についての評価があるが表現について検討できないか。(蔵治)
 - ▶ 評価については定性的に「言葉」で書くことがよい。達成できたこと、今後課題として話し合いを進めることなど分かるように書いておくことが重要。(山本)
- ・今年度WGで活動しているテーマについては、林業が生業として成り立つようになればすべて解決できることだと思う。(星野)
- ・活動については、山に入らなければ今の山の状況について、本当のところはわからないと思う。都市部の方々にもぜひ山の中に入れていただいて知ってもらいたい。施策なども考えてもらう必要がある。(鈴木)
- ・山村ミーティングについては、すでにある団体のうち、実際に山村で動いている団体が多くある。彼らの活動の成果を流域圏全体としてリンクさせることがよいと思っている。こうしたリンクをどんどん増やしていくことが重要であり、そのような意味では、今後は、今ある個別の団体が持つ活動成果と流域圏とのリンクを強くしていければよいと思う。(山本)
- ・矢作川流域圏懇談会にもっと吸引力がほしい。行かなきゃ損だと思わせてほしい。来年度はさらにながらもうと思えるような機運の盛り上がりがあるとよい。(黒田)
- ・今日、この岡崎の場でこれだけの方が出てきたことは大変良かった。山の重要性を多くの人に知ってもらいたい、伝えるということは時間がかかる。地元も含めてもっといろいろな方々に知ってもらうことが重要だと考えている。(沖)



●来年度の活動について

来年度の活動として、興味のある活動内容や運営についてのアイデア、体制について次のような意見が出されました。山部会の活動としては、地域部会を含めて8回を想定し、今年度同様に長野県域、岐阜県域、豊田市域、岡崎市域で各2回ずつやっていくこととなりました。

- ・土木工事に地域材を使う事例を知っている。東海豪雨の際に木工沈床がもちこたえたような話もあるなかで、川の工事について山部会のテーマである木づかいという面で連携するようなことも面白い。現場見学会の企画を通じて実現できるとよい。(洲崎)
- ・WGの回数が多くなると負担が大きくなり大変なので、他部会と連携する際は、WGの回数に計上して対応するなど負担が増えないようにすることがよい。(洲崎)
- ・山村ミーティングはぜひ来年度やっていければよい。山の担い手以外にも農業に従事する若者なども含めて、山村にいる若い方が計画・企画した活動を流域圏で展開できるとよい。(山本)
- ・矢作川流域の森づくりについて、これまでの森づくりの実績や優れた事例などを含めて、川・海・都市住民の方々にも知ってもらいたい。その際は印刷費のような一定の経費がかかるなど一定の課題があることも共有しておく必要がある。(蔵治)
- ・大手の企業と連携して森づくりをおこなっていく例もあるのでその可能性についても考えてはどうか。(鈴木)
- ・山部会としての目標達成に向けたロードマップのようなものがあるとよい。(安藤)



ふりかえり：会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。



よかったと思うこと：額田林研の方々に参加されて勉強になりました。/マップが大変よくできていた。林業グラフの方の意見は良かった。/地図を拡大した物を貼り出してくれたので見やすかった。

よくなかったと思うこと：地域部会は、もう少し前向きな議論が欲しかった。/未だ途中のWGなので”○”、“×”は、まずかっと思ふ。これから行うところもあるので、“予定あり”、“策定中”もしくは言葉で示すようにしたことによければよかったと思ひます。

今後のスケジュール(予定)と情報提供



矢作川流域圏懇談会全体会議は2月28日(金)に開催します。ぜひご参加ください。

